

令和5年度 第1回学校運営協議会 記録

日時：令和5年5月31日（水）

9：45～11：45

場所：第一会議室

○出席者

A 委員：(学識経験者) B 委員：(教育関係者) C 委員：(PTA 代表)

D 委員：(自治会代表) E 委員：(福祉関係者) 本校校長

学校側：副校長2、事務長、総括教務主任、学部主事3、進路部長、支援部長

○欠席者：F 委員（聴覚障害者協会関係者）

○授業参観 9：45～10：45

○会議10：50～11：45

1 開会

2 学校長挨拶

学校評議員会から学校運営協議会に変わった初めての会議である。

よろしくお願ひしたい。

3 出席者紹介

4 令和5年度学校概要説明

5 学校運営協議会について

6 会長、副会長選出

会長：A 委員、副会長：B 委員で承認。

7 議事

(1) 令和5年度の学校経営計画について・・・承認

B 委員：現在ICTの活用はどのように進められているか？

校長：幼稚部以外の小学部から高等部の児童生徒が活用できる状態になっている。それぞれの授業で使われている。

E 委員：要支援家庭の支援はどのようにになっているか？

校長：具体的にこの場では言えないが、子どもが毎日通える状況を作るために、学校と保護者、関係機関と相談しながら進めている。

E 委員：センター的機能はどのように進められているか？

校長：全県に渡り外部に行って支援を行っている。乳幼児相談も行っており、よりよい進路選択ができるように支援を行っている。相談件数は年間80件ほどである。

A 委員：親が「きこえないこと」を受容するのに時間がかかる。子どもが学校で変容していく様子を見て親の気持ちも変わっていく。センター的機能は一関にもある。

D 委員：健康づくりの充実が項目にあるが、授業見学でラケットを見かけたが、部活などはどうなっているか？

校長：中学部は部活でバドミントンを行っている。高等部には陸上部がある。

A 委員：デフリンピックの陸上で活躍している卒業生もいる。

(2) 各学部・寄宿舎の取組について・・・承認

(3) 進路支援の取組について・・・承認

C委員：保護者の立場で話したい。自分の娘がこの学校の卒業生である。現在、大学で生活を送っている。この学校は少人数でいろんなメリットがあったが、大学では新たな刺激を受けて生活している。これからの生徒も大学などで視野を広げてほしい。

進路部長：現在大学を目指している生徒もいる。悩みなどを相談しながら進路に向けて取り組んでいる。就職も自分の力で取り組んでいけるように進めている。

A委員：コミュニケーションを育てることは大きな課題である。これは聾学校に限らずすべての学校の課題でもある。大学でもゼミについて行けない人もいる。人間関係を広げることが大切である。

(4) 支援事業の取組について・・・承認

8 各委員から

A委員：「きこえない・きこえにくい子どもたちの一日フリースクール」のチラシを皆さんに配った。難聴学級が点在し、きこえない子ども同士の交流の必要性を感じる。

B委員：今年度から都南東小にきた。交流している子ども達の様子を見ることができた。聴覚支援学校のめざす教育を知ることができた。都南東小では、思いやりの気持ちを育てたい。A委員から昔から行われてきた交流の経緯をお聞きし、交流の価値がわかった。

C委員：娘が卒業後もアフターフォローをしてもらっている。私も協力できることがあれば、お手伝いしたい。

D委員：以前地元の養護学校で演劇を通して交流したことがあった。授業見学して、よい意味でイメージと違っていた。子ども達がいい環境で教育が進められていた。

E委員：しばらく授業を見る機会がなかったので、授業見学できてよかった。昔、ボランティアでこの学校に来たときは、手話を使うなど言われた。私が付き合いのあるろう者は、製造業で自動車に関わる職業の人が多かった。現在の卒業生の進路がいろいろ変わっているのがわかった。また、以前この学校で講演に呼ばれたときは、生徒の聞こえの様子がそれぞれ違っていたので驚いた。就労支援に関わって、うまくいかなくて戻ってきた人は、コミュニケーションや人間関係に悩んでいることが多い。ろうの高齢者は、地域生活にストレスを感じて病んでしまう人いる。この1年運営協議会委員としてよろしくお願ひしたい。

9 連絡

10 閉会のことば